

タネから育てる 花壇づくり

育てやすい種類を選んでタネから花苗を育てましょう。
基本を習得すれば、
新しい種類や珍しい園芸品種も花壇に植えられます。
私たちが暮らす街を、
元気いっぱいに育つ花で飾りましょう。

いつ、
何を、
どのように？

次は、
どんな花壇を
つくろうか？

*Growing
from Seed!*

横浜市緑土木事務所

〒226-0025
横浜市緑区十日市場町876-13
TEL : 045-981-2100
FAX : 045-981-2112
MAIL : md-doboku@city.yokohama.jp



2023年(令和5年)3月発行



はじめに…

緑土木事務所では、公園愛護会やハマロードサポーターなどの方々に向け、「タネや小さな苗から育てる花壇づくり」をテーマに、2020年(令和2年)度から3年間「花と緑のサポーター養成講座」を開催しました。ここでは、タネまきからの育苗、土づくり、花壇への植え付け、維持管理など、花や緑を上手にいかす園芸の知識と技術を学びました。

今回、これらの活動で培った、タネや小さな苗から育てる花壇づくりのノウハウを、1冊の冊子にまとめました。地域のみなさまの花壇づくりの活動に活用していただくとともに、タネや小さな苗から花苗を育てる喜びを味わっていただけたらと思います。

一緒に緑区を花と緑あふれる街にしましょう。

Contents

はじめに	P.2
花壇づくりの年間カレンダー	P.4
タネまき	P.6
ポット上げ～育苗	P.8
花壇デザインを考えよう	P.10
花壇に植え付け	P.12
花壇管理	P.14
育てやすく長く楽しめる夏～秋の草花	P.16
育てやすく長く楽しめる春の草花	P.18
花壇づくりQ&A	P.20
花と緑のサポーター養成講座について	P.22
おすすめ堆肥「はまっ子ユーキ」	P.22
おわりに	P.23



花壇づくりの年間カレンダー

花壇は、丈夫で長く観賞できる植物を選べば、年2回の植え替えでつくることができます。春にタネをまいて育てる夏秋花壇と、秋にタネをまいて育てる春花壇です。適した時期にタネをまき、作業を進めていきましょう。

まずは

何を植えるか考えよう!

花壇がある場所は、どんなところでしょう？誰がどこから眺める花壇なのか、つくってみたい花壇のイメージを考えて植物の種類を選んでいきます。



花壇づくりの5つのプロセス

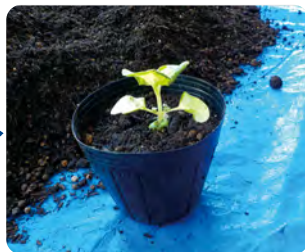
1 タネまき

発芽後の管理がしやすいセルトレイにタネまきします。1粒ずつまいて、たっぷり水やりします。



2 ポット上げ

育った苗は、ポリポットに植え替えましょう。光と養分で丈夫な苗に育てます。



3 植え付け

縦横のラインを揃えた「方眼植え」で植えてみます。苗が小さくても上手に植えてあるときれいです。



4 花壇の完成!

園芸店で売っているような立派な苗ではなくても、愛情いっぱい育てた苗を植えた花壇は育っていく過程も楽しみです。



5 その後の管理

咲き終わった花がらを取りながら育てましょう。花がらは、取れば取るだけ蕾を育ててたくさん花が楽しめます。除草、水やり、伸びた部分の切り戻し、たくさん花を咲かせるためには追肥も必要です。





タネまき

タネが発芽するためには、適した温度、水、空気が必要です。前ページの年間カレンダーを参考にして、適した時期にタネまきしましょう。植物の種類によってタネの大きさ、形はさまざまです。まずは大きめで発芽しやすい種類を選んで挑戦してみましょう。

用意するもの

タネまき培土

清潔で保水性、排水性がよい土が適しています。

割りばし

先を尖らせて、タネを1粒ずつ目指す場所に置いていきます。



ラベル

表には植物名と園芸品種名、裏には日付と自分の名前を記入します。

セルトレイ

1マスごとにタネまきできるので、根を傷めずに発芽後の植え替え作業がしやすく便利です。

セルトレイとポット、どちらにまく？

タネが小さいならセルトレイ、
大きいならポットまきにしましょう

ジニア、センニチコウ、
ダイアンサスなどの
小さくて微細なタネ

セルトレイにまく

ヒマワリ、アサガオ、
スイートピーなどの
大きいタネ

ポットにまく

夏秋花壇

4月中旬

5月中旬

春花壇

9月中旬

10月上旬



1 セルトレイにタネまき培土をたっぷり注ぎ、端や角が隠れるくらいに入れます。



2 手のひらでやさしく表面をなでるようにして平らにします。指で土を押し込まないように注意しましょう。



3 軽く上下にトントンとして入れた土を落ち着かせます。中に空洞があると土が下がるので均一にします。



4 二つ折りにした厚紙の上にタネを少量のせ、割りばしで1粒ずつマス目の中央にタネを置きます。



5 タネは割りばしの先でチョンと突いて土の中に埋めていきます。深さはタネの厚みの2倍くらいが目安。



6 すべてまき終わったらラベルを立てます。深くしっかりと刺して抜けないようにしましょう。



はす口を使う！

7 ジョウロでの水やりはいきなりかけずに、セルトレイの横で水の出を安定させてからたっぷり。

タネまき後の管理

発芽までの置き場所は、雨と直射日光が当たらない明るい屋外が理想です。発芽までは土が乾かないように管理し、発芽後は明るい場所に移動します。日照不足になると軟弱な苗になってしまうので気をつけましょう。





ポット上げと育苗

タネまきした苗をさらに大きく育てるためにポリポットに植え替えましょう。ポットの中で根を張らせ、茎や葉を茂らせて植え付け前にしっかりとした苗に育てます。

用意するもの



培養土

市販の培養土（肥料入り）をベースに堆肥（はまっ子ユーキなど）を加えてさらによい土にしましょう。

※はまっ子ユーキについてはP.22を参照



ピンセット or 割りばし

セルトレイから苗を取り出す際に使います。根を切らないように割りばしは、先を尖らせておきます。



9cm ポリポット

ポリポットは9cmか7.5cmを利用。サイズが小さくなると土が少なくて済みますが、乾きやすくなるので注意が必要です。

ポット上げのタイミングは？

植物の種類によって育つスピードが違います。隣の苗と葉が触れ合うくらいになったら、またはセルトレイの下から根が出てきたら、を目安とします。

ジニアの場合

<タネまきから約10日後>

双葉に！

<タネまきから5週間後>

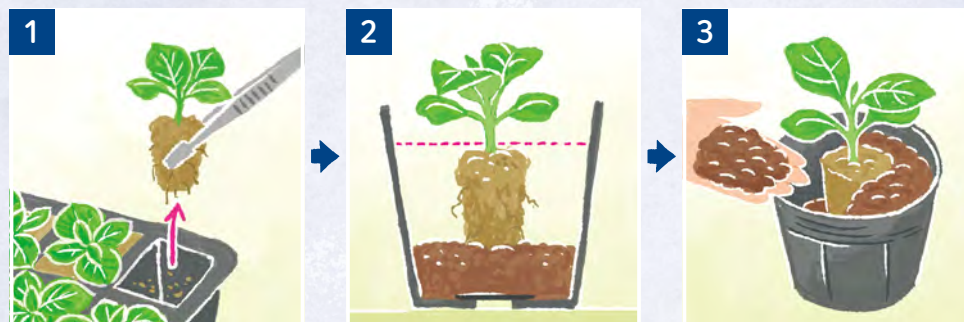
ポット上げ適期！

夏秋花壇

5月下旬
6月中旬

春花壇

10月中旬
11月上旬



1 根を切らないように、セルトレイの縁にピンセットを添わせていねいに苗を取り出します。

2 あらかじめ少し用土を入れてから、双葉の下まで土の中に埋まるように苗を置いてみます。

3 苗の周囲に用土を入れます。セルトレイの土が見えていると浅植になるのでしっかり埋めます。



4 ポリポットを持って上下にトントンとし、土を落ち着かせます。ポットの縁から少し下で土が平になるように。

完成！

5 たっぷりと水やりします。下から出る水が透明になるくらいを目安にしましょう。

必要ならば <葉が10枚くらい育ってきたら>

てきしん 摘心

わき芽

摘心とは成長点を摘んでわき芽を育てることです。茎が伸びてわき芽が育つ種類に苗のボリュームを出す目的で行います。必ずしもすべての種類に必要な作業ではありません。

<摘心の直後に>

ついひ 追肥

苗の植え付け前にさらにしっかりとした苗にしておくために化成肥料（粒状）をまきます。これを追肥と言います。摘心した苗は、さらにわき芽が育ちます。

花壇デザインを考えよう!

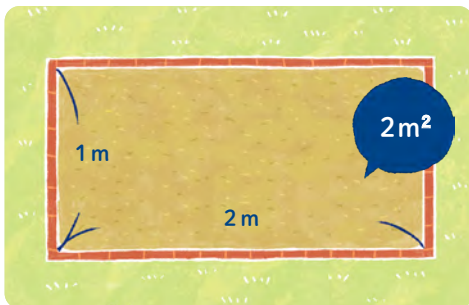


花壇はデザインしてこそ素敵になります。花色の組み合わせがいちばん目を引きませんが、そのほかにも花の形や草丈など、いくつかのルールを知っておくことで誰でもバランスのよい素敵な花壇をつくることができます。

～ 花壇デザインのプロセス ～

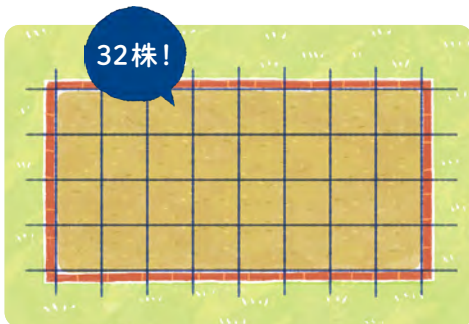
1 花壇の面積を測る

デザインし、花苗を用意するためにも植える場所の面積を正しく知っておきましょう。花壇やコンテナに縁取りがある場合は、内側の面積を測ります。



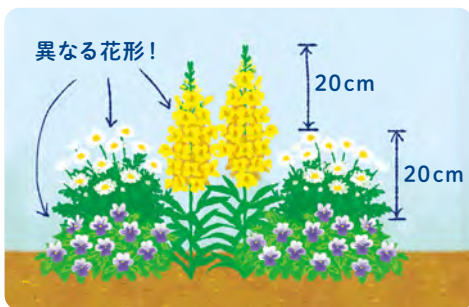
2 植えられる苗の数を割り出す

1m²あたりの苗数を16株として計算しましょう。花壇の面積が2m²の場合、2×16=32株になります。増やしても1m²当たり25株までとします。



3 苗の種類を決める

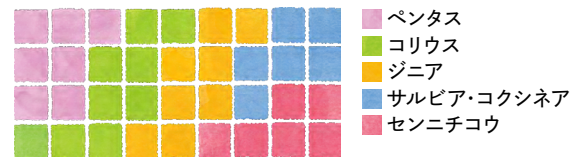
まず、遠くからでも目立つ種類を1種類選びます。次に、異なる形の花を組み合わせるとお互いに引き立てあいます。草丈は20cmほどの差をつけるとメリハリがでます。



夏秋花壇

丸い花のジニアにサルビアの長い花穂、球状のセンニチコウなど異なる形の花に、葉を觀賞するコリウスを組み合わせせて。

<配置図>



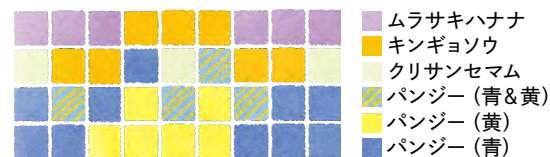
<植え付け直後>



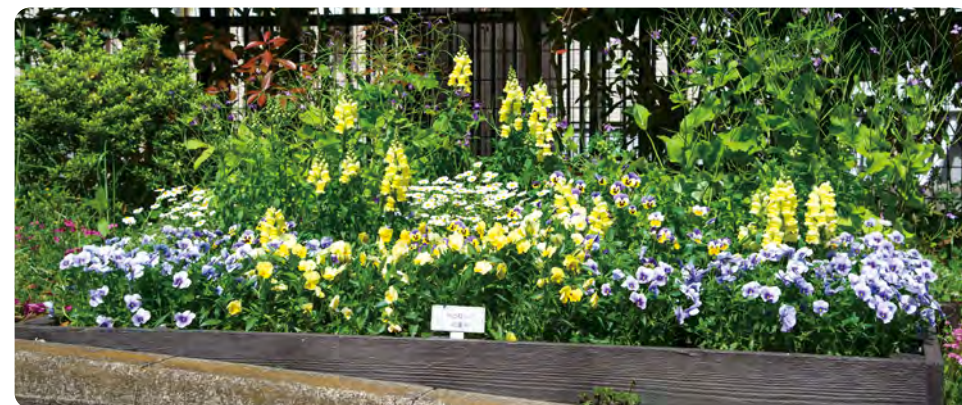
春花壇

早春から咲くムラサキハナナは、草丈が高くなり晩春には終わるので花壇の後方に植え、晩春まで咲くキンギョソウと組み合わせせて。

<配置図>



<植え付け直後>





花壇に植え付け

大切に育てた苗が元気に育つように、植え付け前に土づくりをしましょう。大きなスコップで深さ30cmくらいを耕し、土中に新鮮な空気をたっぷりと入れ込みます。根がしっかりと張れると土中深くから水を吸い上げ、養分も吸収できます。

用意するもの

花壇図面

どのように植えるのか、あらかじめ図面にしておくことで情報が共有できて苗の準備や配置などスムーズに作業が進みます。



堆肥 (はまっ子ユーク)



元肥 (鶏ふん)



たいひ もとひ 堆肥と元肥

堆肥などを入れることで土はやわらかくなり、通気性と排水性、保水性がよくなります。さらに栄養分として植え付け前に入れておく肥料を元肥と呼びます。

植え付ける前にすることは？



草むしり

花壇の中や周囲の雑草を取り除いておきましょう。雑草はタネを实らせる前の小さなうちに取ると楽ですよ！



堆肥と元肥を入れる

どちらも袋に記載された量を参考に、入れすぎないようにします。鶏ふんは1m²あたり移植ごと2杯分を目安にします。



×2

夏秋花壇

6月下旬
7月中旬

春花壇

11月中旬
12月上旬



「方眼植え」は、縦横を揃える植え方です。支柱を利用して苗を置いてみます。



苗を抜き取るには、苗を押さえてさかさまにし、ポリポットを軽くもんではずします。

根が回っていたらほぐしましょう

ポリポットから抜いた際に、真っ白になるほど根が回っていたら少しほぐすと植え付け後、すぐに花壇の土に根がのびていきます。

ほぐさなくてよい状態



ほぐした方がよい状態



中央に1列植え、これを基準にして縦横のラインを揃えると上手に植えられます。



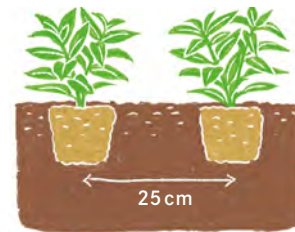
図面を見ながら手分けして、ラインが揃っているかな？と声かけしながら楽しく植えます。



植え付け後には水をたっぷり。1株ごとに根鉢と花壇の土を密着させるイメージで。

植え付ける深さや間隔について

ポリポットに植わっていたときの土(根鉢)が見えないように植えましょう。1m²あたり16株で植える場合、植え付け間隔は25cmになります。



たくさん
咲かせよう!

花壇管理

美しさを
保とう!

花壇づくりの楽しさは、手入れしながらきれいに花壇を整えていくことです。
「植えたら終わり」ではなく、必要最小限の手入れで
次々と花を咲かせるコツを知っておきましょう。

水やりは?



夏
花壇

植え付け後は、しっかり根づくまでは気にかけて管理します。土が乾いたらたっぷり、が水やりの基本です。真夏の日中は、水温が上がるので控え、朝か夕方に行いましょう。

春
花壇

冬は表面が乾いていても土の中が湿っていたら水やり不要です。土の中まで乾いていたらたっぷり行います。春に気温が上がってくると急に乾き始めるので注意します。

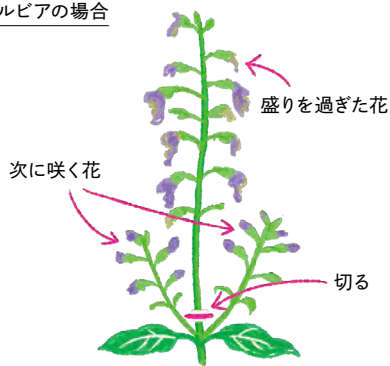


花がら摘みは?

夏
花壇

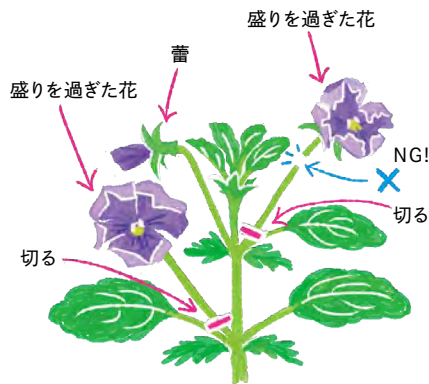
盛りを過ぎた花は、次々と摘み取りましょう。茎の下をたどってわき芽や蕾があったらその上で切るようにすると次の花が早く咲きますよ。

サルビアの場合



春
花壇

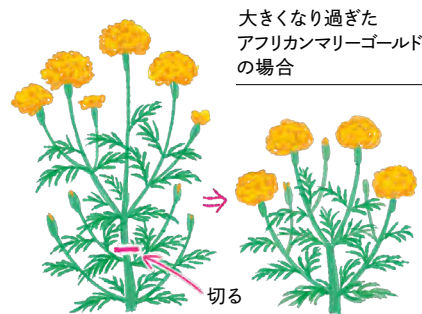
パンジーやピオラは花だけ摘むのではなく、タネができる部分を確認し、花茎を残さずに摘み取るとききれいです。



草姿が乱れてきたら?

夏
花壇

茂りすぎて手前の種類にかぶさるものは切り、整えながら管理します。夏の終わりの追肥の際に、切り戻しを行うと晩秋まで開花が楽しめます。

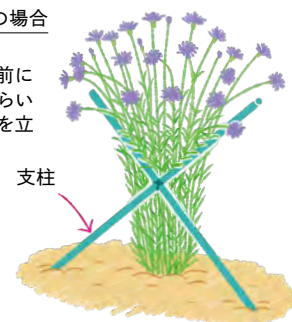


春
花壇

草丈が高くなる種類の中には、転倒防止のために支柱を立てたほうがよいものもあります。支柱は植物優先で目立たないように立てるのが腕の見せどころです。

ヤグルマギクの場合

ひどく乱れる前に草丈の半分ぐらいの高さで支柱を立てましょう。



病虫害対策は?

夏
花壇

夏の高温乾燥や風通しが悪いところではハダニが発生しやすくなります。葉の裏に付くハダニは、葉に水をかけると効果があります。



ハダニ

春
花壇

密植や肥料過多になると風通しが悪くなり、アブラムシが発生しやすくなります。気温が上がってきたら花がら摘みや切り戻しをして防ぎましょう。



アブラムシ

育てやすく長く楽しめる

夏～秋の草花

夏の暑さのなかでも咲き、秋まで開花が続く草花をピックアップしました。タネまき適期は気温が上がる春以降なので、タネからでも比較的容易に育てられます。



…タネから育てやすい草花



コリウス

- シソ科／一年草
- 観賞期：6～11月 ●草丈：20～50cm

鮮やかな葉色が楽しめるのが魅力で、ボリューム感もあり、花壇では花に負けない存在感を発揮します。花芽が出たら摘み取ると、秋まで長く観賞できます。



アフリカンマリーゴールド

- キク科／一年草
- 花期：6～11月
- 草丈：30～100cm

夏らしい花色で、ボリューム感のあるボール状の花が長期間咲き続けます。高性種は倒伏防止のために茎に沿わせて支柱を立てておきます。



フレンチマリーゴールド

- キク科／一年草
- 花期：6～11月
- 草丈：20～30cm

草丈が低く、よく分枝してこんもりした株になります。一重～八重咲きまであります。夏に切り戻しを行うと秋に再びこんもりした姿に。



アゲラタム

- キク科／一年草
- 花期：6～11月
- 草丈：15～70cm

薄紫と白があり、どちらも涼感たっぷり。花がたくさん咲くと株全体がふんわりした印象に。黄色やオレンジの花色を引き立てる役目もします。



ジニア 'プロフュージョン'

- キク科／一年草
- 花期：6～11月
- 草丈：30～40cm

従来のジニア(百日草)が改良されてウドンコ病に強く沢山開花するプロフュージョンやザハラというシリーズが花壇用として優秀です。



ペンタス

- アカネ科／一年草
- 花期：6～11月
- 草丈：30～60cm

星形の小花が花房になって咲きます。花期が長いのも魅力で、耐暑性も強く、暑い時期も咲き続けます。長く咲くので定期的に追肥を。



センニチコウ

- ヒユ科／一年草
- 花期：7～11月
- 草丈：20～70cm

赤やピンク、白の小さなポンポンがかわいらしく、花壇がリズムカルになります。発芽適温が高めなので、少し遅めのタネまきでも大丈夫。



アングロニア

- オオバコ科／一年草扱い
- 花期：6～10月
- 草丈：30～50cm

穂状にかわいらしい花をつけ、夏も休まず咲いて秋まで開花が続きます。明るい日陰でも育ちます。長く咲かせるために追肥を忘れずに。



トレニア

- アゼトウガラシ科／一年草
- 花期：6～10月
- 草丈：20～30cm

紫や白の筒状の花が群れて咲く姿が涼しげです。種子は細かく、こぼれタネでも増える丈夫な花です。寒くなると紫に紅葉します。



カンナ(実生系)

- カンナ科／宿根草
- 花期：7～11月
- 草丈：40～100cm

大きくて美しい葉がダイナミックでトロピカルな花を咲かせる姿は素敵なアクセントになります。大きいタネは、ポットにまきます。



ピンカ

- キョウチクトウ科／一年草
- 花期：6～11月
- 草丈：20～70cm

和名は日々草。夏の直射や乾燥に強く、くっきりした形の花をたくさん咲かせ、花色も豊富に揃います。矮性、高性、這い性があります。



サルビア・コクシネア

- シソ科／一年草
- 花期：7～11月
- 草丈：40～50cm

サルビアの仲間の中でも育てやすく、白やピンク、赤などの花色があります。花が穂状に咲き、丸い花の隣に植えると変化がつかます。



サルビア・ファリナセア

- シソ科／一年草扱い
- 花期：7～10月
- 草丈：40～50cm

ブルーの花が涼しげで、スマートな花穂も魅力。ラベンダーのようなさわやかな印象です。3株くらいをまとめて植えるとよく目立ちます。



メランポジウム

- キク科／一年草
- 観賞期：6～10月
- 草丈：20～50cm

耐暑性が強いので、一重のかわいらしい黄色の花を真夏でも咲かせ続けます。初めは成長がゆっくりですが、暑くなるとぐんぐん成長します。



ヒマワリ

- キク科／一年草
- 花期：7～9月
- 草丈：30～300cm

花壇には草丈が150cm程度の品種を選び、後方に加えます。大きなタネは、ポットまきに。遅まきして秋に咲かせるのもおすすめです。



ケイトウ

- ヒユ科／一年草
- 花期：7～11月
- 草丈：10～100cm

クルメゲイトウやトサカゲイトウ、ノゲイトウなど花形の異なる種類が豊富にあります。晩秋になると花が色濃くなって本領を発揮します。

育てやすく長く楽しめる

春の草花

11～12月に植えた苗は、本格的な寒さがくる前に根をしっかりと張らせ、丈夫に育てます。春に暖かくなると株がさらに大きくなり、花をたくさん咲かせるのが楽しみ!



…タネから育てやすい草花



パンジー

- スミレ科/一年草
- 花期: 11～6月 ●草丈: 15～20cm

晩秋から開花が続く品種もあり、冬の間も花壇に色彩をもたらします。花色が豊富で花壇用には中輪(花径5～7cm)を選ぶと株いっぱい花が咲き楽しめます。



ムラサキハナナ

- アブラナ科/一年草
- 花期: 3～4月
- 草丈: 40～60cm

淡い紫色の花を咲かせる素朴な姿が魅力。痩せ地でもこぼれタネでふえる丈夫な性質です。花壇の後方に加えるのがおすすめです。



ベニジューム

- キク科/一年草
- 花期: 3～5月
- 草丈: 50～70cm

早春から咲く鮮やかなオレンジ色の花は、株全体が白っぽい綿毛に包まれる姿も個性的。花壇の中段～後方に入れるととても目立ちます。



キンセンカ(カレンデュラ)

- キンボウゲ科/一年草
- 花期: 3～5月
- 草丈: 20～60cm

黄色&オレンジ系の元気な花色がよく目立ちます。クリーム色の品種も出てきました。タネが大きくまきやすいので挑戦してみましょう。



クリサンセマム・パルドサム

- キク科/一年草
- 花期: 12～5月
- 草丈: 20～30cm

春、気温が上がると丈が伸びて沢山の花を咲かせ、白に黄色の花芯の花色がよく目立ちます。'ノースポール'という品種名でも呼ばれます。



スイートアリッサム

- アブラナ科/一年草
- 花期: 2～5月
- 草丈: 10～15cm

小花が集まってこんもりとした株姿に。花期が長いパンジーとの組み合わせもおすすめで、花の大小でメリハリがつけます。



ダスティミラー

- キク科/宿根草
- 観賞期: 11～6月
- 草丈: 20～60cm

シルバーリーフが美しい花壇の名脇役。シロタエギクの名前でも流通。葉形の異なる品種があり、花壇の雰囲気に合わせて選べます。



アイランドポピー

- ケシ科/一年草
- 花期: 3～5月
- 草丈: 40～50cm

華奢な茎の先にふんわりした花を咲かせる姿が人気。タネが細かく、移植を嫌う種類ですが花壇の中心にいくつか育てたい花のひとつです。



ニゲラ

- キンボウゲ科/一年草
- 花期: 5～6月
- 草丈: 50～60cm

繊細な花が咲き、風にそよぐような草姿が楽しめます。ブルーのほか白やピンクもあります。花後につくタネが入った風船状のさやも魅力的。



ヤグルマギク

- キク科/一年草
- 花期: 4～6月
- 草丈: 80～100cm

美しいブルーのほか白やピンク、シックな赤紫などがあり、繊細な花が楽しめます。草丈が高くなるので、花壇の後方に加えるのがおすすめです。



デージー

- キク科/一年草
- 花期: 3～5月
- 草丈: 10～20cm

ボタンのような丸い花がポンポン咲く様子がかわいらしく、ピンクのほか白や赤もあります。草丈が低めなので、花壇の手前に入れて。



ワスレナグサ

- ムラサキ科/一年草
- 花期: 3月～5月
- 草丈: 20～50cm

美しいブルーが知られますが、ピンクや白もあります。たくさん咲く小花は、大きな花と組み合わせるとバランスがよくなります。



ネモフィラ

- ムラサキ科/一年草
- 花期: 3～5月
- 草丈: 10～20cm

株を覆うように咲くブルーの花が人気。こんもりとした株姿になるので、花壇の縁取りなどに向いています。白や黒に近い紫もあります。



キンギョソウ

- オオバコ科/一年草
- 花期: 5～6月
- 草丈: 20～100cm

鮮やかな花色が豊富に揃います。切り花にも利用される高性種と草丈の低い矮性種があるので、花壇では草丈を上手にいかして配置します。



ダイアンサス

- ナデシコ科/宿根草
- 花期: 5～6月
- 草丈: 10～60cm

ナデシコの仲間で花色も品種も豊富にあります。発芽しやすく耐暑性、耐寒性も強く丈夫な性質で、たくさん花が咲く姿を楽しめます。



ゴデチャ

- アカバナ科/一年草
- 花期: 5～6月
- 草丈: 50～80cm

鮮やかで大きな花が咲き、ボリューム感ある草姿に。とくに赤～ピンク系の濃淡が多く揃っています。花色に透明感があるのも魅力です。



花壇づくり Q&A

地域の公園や街路の花壇づくりで活動されている皆さんからの質問で多いものをまとめてみました。

Q タネから花壇用の苗を育てたことがありません。まず、何からまいたらうまいくいますか？

A タネまきは適した時期に適した種類を選んでまくことが成功のカギになります。まず春まきから挑戦しましょう。5月に気温と地温がしっかり上がってからまけば発芽が早く、その後の生育も順調になります。マリーゴールドやジニア、センニチコウなどタネからでも育てやすいものから挑戦しましょう。おなじみの種類でも花色、咲き方、草丈などいろいろな園芸品種があり楽しめます。



Q タネまきに向かない種類はありますか？

A 植物の種類によってタネの大きさや形はさまざまです。タネが微細だったり、育苗に時間がかかるものは苗で入手して花壇に植えるほうが簡単です。ペゴニア、ペンタス、ダスティミラーなどは、上級者向きとして徐々に挑戦していきましょう。タネから育てやすいものはタネから、それ以外は苗から取り入れましょう。



Q 花壇が素敵に見えるデザインは、どのようにしたらできるのでしょうか？

A まず、花の形をグループ分けして組み合わせてみましょう。春の花壇の場合、クリサンセマム、キンセンカ、デージーなど丸い花ばかりを並べると単調になってしまいます。パンジーやピオラばかりの花壇も同じで、間にキングソウ(縦長になる花穂)、ワスレナグサ(小花がたくさん咲く)など形の異なる種類を入れるとお互いが引き立ちます。

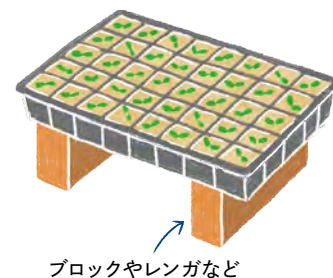


Q 花壇の場所の条件は、日当たりのよいことでしょうか？

A 地域で活動する花壇では、多くの人に見てもらえることも大切な条件になります。そのうえで、日当たりがよく、手入れがしやすい花壇であれば理想的です。手入れしやすいというのは、水場が近くにあること、手が届きやすい花壇の大きさと形、交通量の多い道路の近くでなく安全に活動できることも大切な条件です。

Q せっかく発芽した芽がダメになってしまったり、苗がヒョロヒョロになってしまいました。

A 発芽したの苗は立ち枯れ病などの病気になる場合があります。清潔なタネまき用土を使いましょう。発芽した双葉が、チョキンと切られたような状態ならばナメクジの被害です。タネまきしたセルトレイなどは、地面から離して置くようにしましょう。苗が貧弱に伸びる原因は、日照不足や水のやりすぎです。



Q 道路添いの花壇なのでとても乾きやすいです。水やりの回数を減らせる工夫はありますか？

A

- 土づくり/よく耕して、堆肥(はまっ子ユーキ)や腐葉土などを入れて水持ちのよい土に。
- 植え付け時期/夏秋花壇は梅雨明け前に、春花壇は12月初めには植え付けを終えてしっかりと根を張らせませす。
- 植え付け後/乾燥防止の目的で腐葉土などで表面を覆います。それでも花壇の縁近くは乾きやすいなど、どうしても水やりが必要になります。花壇の近隣の方にも声をかけて協力してもらいましょう。

Q 花壇で長く花を楽しむためには何をしたらよいですか？

A 花がら摘みは手入れの基本作業です。摘むことでタネを実らせず、吸収した栄養分で蓄えて花を咲かせます。花がらを摘みながら植物の状態を観察できるので病害虫の早期発見にもつながります。また、茂って形が崩れた状態を切り戻すことでさらに形よく、たくさん花を咲かせられます。

『花と緑のサポーター養成講座』 について…

緑土木事務所では、「タネや小さな苗から育てる花壇づくり」をテーマに、2020年度(令和2年度)から3年間、「花と緑のサポーター養成講座」を開催しました。主に緑土木事務所を会場として、公園愛護会やハマロードサポーターなどの方が参加しました。



講義の様子



タネまき
実習の様子



花壇づくり
実習の様子



多摩市立グリーンライブセンター

※耐震工事のため2023年4月より2年間休館

3年間の
講座について、
ご紹介します。

2020年(令和2年)度 育てた苗で花壇をつくる

育てた苗で花壇をつくるための基本的な知識と技術を学びました。小さな苗から育て、土木事務所正面入り口に花壇をつくって育てた苗を植えました。

2021年(令和3年)度 花壇の花を上手に育てる

前年度から育苗数や管理する花壇を増やし、夏秋花壇・冬春花壇の管理を行い、年間を通して花壇の花を上手に育てる方法を学びました。また、春と秋に東京都にある多摩市立グリーンライブセンターの見学会を行いました。

2022年(令和4年)度 タネまきからの花壇づくりと 花壇デザイン

小さな苗からの栽培に加え、春と秋に2種類ずつセルトレイにタネをまいて苗を育てました。また、花壇デザインについて基本的なことを学びました。

講師・本誌監修

山 浩美 (やま・ひろみ)



恵泉女学園短期大学卒業後、造園会社にて植物園、公園などの花壇や緑地管理を担当する。その後、2005年愛・地球博などのテーマパークや屋上庭園などの花壇計画や維持管理に携わる。恵泉女学園大学非常勤講師(花壇ボランティア論)。有限会社 山・高瀬計画室代表取締役社長。著書「はじめての宿根草」(講談社)、「つるバラとつる植物のガーデニング」監修(成美堂出版)ほか。1級造園施工管理技士。

おすすめ
堆肥!



横浜市の剪定枝・刈草をリサイクルして作った堆肥

はまっ子ユーク

横浜で育った樹木の剪定枝や刈草等を原料に横浜で作っている堆肥です。土壌改良材として環境にやさしく、ゆっくりと力を発揮。畑、花壇やプランターにご利用いただける、土づくりの強い味方です。

はまっ子ユークは
緑のリサイクルプラントなどで
販売しています。

詳しくは
こちら!



おわりに…

横浜市では、公園の花壇や街路の植樹樹などの公共の花壇の管理を、公園愛護会やハマロードサポーターの協力のもと行っています。

活動にご興味のある方は、緑土木事務所までお問合せください。

大事なのは、無理せず楽しく活動を行うことです。

そのためには、ルールを守り、

仲間と協力して作業をしていきましょう。

